

第13回企画展「極秘機関『ヤマ機関』と登戸研究所  
-日本陸軍の防諜とは  
ゾルゲ事件80年-」記録 防諜キャンペーンの時代コ  
ーナーについて

メタデータ	言語: ja 出版者: 明治大学平和教育登戸研究所資料館 公開日: 2023-11-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 武田,美佳 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/0002000176">http://hdl.handle.net/10291/0002000176</a>

## 第13回企画展「極秘防諜機関『ヤマ機関』と登戸研究所 —日本陸軍の防諜とは ゾルゲ事件80年—」記録 展示記録 防諜キャンペーンの時代コーナーについて

武田 美佳

明治大学平和教育登戸研究所資料館短期嘱託

第13回企画展「極秘機関『ヤマ機関』と登戸研究所 —日本陸軍の防諜とは ゾルゲ事件80年—」の展示の一つとして、当時、軍と政府によって展開された防諜キャンペーンの様子を再現したコーナーを設置した。



### (1) 防諜標語ポスター制作について

新井辰男『スパイと防諜』(新光閣, 1939年), 兵庫県防諜研究会 編『スパイ戦に備へて』(兵庫県防諜研究会,

図「防諜キャンペーンの時代」コーナー展示のようす  
(2023年筆者撮影)

1938年)に紹介されている防諜標語を当時の手書きのフォントやデザイン, 色合を意識してイラストソフトで再現した。なお当館所蔵の防諜マッチラベルはそのままポスターとして使用した。

### (2) 参加型展示「防諜キャンペーンにご協力ください」について

見学者自ら筆者が作成した防諜標語ポスターを自由に貼れるようにし, 当時の公共施設や職場で行われたであろう誰かの作業を追体験してもらう仕掛け。

### (3) 防諜週間の銀座の風景

1941(昭和16)年5月12日付『読売新聞』東京版夕刊3面に掲載された「防諜週間」時の銀座の街の写真のイメージを立体化した。

### (4) 防諜紙芝居「スパイ御用心」

紙芝居「スパイご用心」(日本教育紙芝居協会, 1941年, 原本は平和資料館草の家所蔵)の

複製を制作し、手にとって閲覧できる状態で展示した。なお 2023 年 5 月には愛国婦人会に扮した職員による大迫力読み聞かせイベントも開催した。

写真や資料だけでは伝わりにくい、この異様ながらも大真面目な当時の雰囲気を感じてもらいたく、眺めるだけでない、まるでその中にいるように感じてもらえる展示を目指した。紙芝居を見た子ども達は外国人をスパイと信じ、防諜標語のシャワーを浴びた大人達は職場や町内で自然とお互いを見張りあう、そんな時代があったことを少しは想像してもらえたのではないだろうか。

防諜ポスター公募の審査員には日本のグラフィックデザイナーの先駆者の一人である杉浦非水が名を連ね<sup>(1)</sup>、防諜標語ではないが数年後の国民決意の標語には、当時大政翼賛会宣伝部員であったのちの『暮らしの手帖』編集長、花森安治が関わった<sup>(2)</sup>。登戸研究所の研究者がそうであったように、ここでもその能力や才能は、愛国心の名のもとに戦争に利用されていたことも付け加えたい。

〔注〕

(1) 1941 (昭和 16) 年 7 月 31 日付読売新聞 東京版夕刊 3 面の記事より

(2) 津野海太郎『花森安治伝：日本の暮しをかえた男』（新潮社、2013 年）p.148

〔参考文献〕（著者名五十音順）

新井辰男『スパイと防諜』（新光閣、1939 年）

グラフィックデザインの世紀編集委員会編『グラフィックデザインの世紀：文章と談話と作品で構成：明治世代、山名文夫、杉浦非水から昭和世代まで』（美術出版社、2008 年）

田島奈都子『プロパガンダ・ポスターにみる日本の戦争：135 枚が映し出す真実』（勉誠出版、2016 年）

津野海太郎『花森安治伝：日本の暮しをかえた男』（新潮社、2013 年）

兵庫県防諜研究会 編『スパイ戦に備へて』（兵庫県防諜研究会、1938 年）